

「由利海岸波除石垣」

秋田県にかほ市

秋田市以南の海岸がほとんど砂地であるのに対し、由利海岸は岩礁という特異な環境である。このため、荒波は「塩霧(しょぎり)」と呼ばれるしぶきとなって農地や農作物に壊滅的な被害をもたらした。また、波打ち際を走る羽州浜街道は「海道」とも呼ばれ、高波による道路の決壊等、通行の難所であった。

丸石を積み上げた石垣には適度の隙間があり、波の力を和らげる働きや塩霧を抑制する効果、冠水しても海水が引きやすくなることまで計算されていた。しかし、

高潮や強い波浪により、石垣は頻繁に破損され、先人たちはそれを何度も積み直してきた。現在では、ところどころに消波ブロックが設置されて、石垣に直接は波風があたらないようにされており、芹田では2区間約370m、飛では鷲守、石崎、蟹坪、くずれの4ヶ所が保存されている。

なお、蟹坪という地名は、昔、村の流行病があったときに無くなった人たちを、この坪(小さい入江)



で体を洗い棺に納め、近くに埋葬したことから、「カン(棺)ツボ」「ガンツボ」とよばれ、いつのまにか「蟹坪」の文字があてられ、「ガニツボ」と呼ばれるようになっていわれている。

由利南部海岸絵巻(大竹自治会蔵)

みどころ



- 白瀬南極探検隊記念館：明治末期、日本人で初めて南極を探検した白瀬 轟中尉の偉業を紹介する記念館。館内には探検で使用した装備や探検船「開南丸」の内部を再現した実物大模型が展示され、現在行われている南極観測についても紹介している。☎ 0184-38-3765
- 象潟:松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」に登場する景勝地。当時は内湾であったものが、1804年の地震で隆起し陸地となっている。芭蕉関係の資料は、にかほ市象潟郷土資料館で見られる。☎ 0184-43-2005 にかほ市象潟郷土資料館 ホームページアドレス <http://hyper.city.nikaho.akita.jp/kyoudo/>